

同居家族内で発生したヒトパレコウイルス 3型による成人の流行性筋痛症

じゅ ず しょうじ ろう¹⁾ き しま つね たか
珠 数 祥治朗¹⁾ 木 島 庸 貴²⁾
やま がた しん ご²⁾
山 形 真 吾²⁾

キーワード：ヒトパレコウイルス3型, HPeV3, 流行性筋痛症, 成人

要 旨

夏を発症のピークとし春から秋の時期に流行性筋痛症と診断される疾患を経験することがある。一般に急性の経過で発熱・倦怠感を生じ、さらに体幹部を中心とした筋痛症状を伴うことが多く、流行性のウイルス感染症が示唆される病歴を有する。今回、両手の筋力低下、大腿前部の筋痛と歩行障害を主訴とする56歳の男性について、同居の親族（27歳の男性）に同様の症状を認め、成人の流行性筋痛症を疑った。両者に対して咽頭及び便のウイルス検査を行い、全ての検体からヒトパレコウイルス3型が検出された。筋痛は、体幹部には認めず、四肢に強いという特徴を有した。流行性筋痛症を疑う症例では、ヒトパレコウイルス3型感染症の可能性を考慮する必要がある。

はじめに

流行性筋痛症（Bornholm 病）は、比較的強い胸痛や腹痛を伴い、主にコクサッキー B の感染によって生じる、特に夏季に発生しやすい疾患である。近年、体幹部よりも四肢に強い筋痛を呈する流行性筋痛症を来すヒトパレコウイルス3型（Human parechoviruses: HPeVs）の流行が報告されている¹⁻³⁾。ヒトパレコウイルスはピコルナ

ウイルス科パレコウイルス属に分類されるウイルスであるが、特に3型（HPeV3）は新生児、早期乳児に敗血症、髄膜脳炎などの重症感染症を引き起こすことがあり、小児科領域で注目を集めている^{4,5)}。一方で、成人では HPeV3 が重症感染症を引き起こしたという報告は見当たらないが、成人では流行性筋痛症を引き起こすことが報告されている⁶⁾。HPeV3 感染による流行性筋痛症は、ヒトパレコウイルス3型関連筋痛症/筋炎（HPeV3-associated myalgia/myositis; HPeV3-M）と呼ばれている。また HPeV3-M では、握力の低下が特徴的であると報告されている⁷⁾。今回、感冒様症状後の筋痛と握力低下が家族内でほぼ同

Tsunetaka KIJIMA et al.

1) 島根大学医学部医学科

2) 島根大学医学部総合医療学講座

連絡先：〒693-8501 島根県大田市大田町吉永1428-3

島根大学医学部総合医療学講座

大田総合医育成センター（大田市立病院）